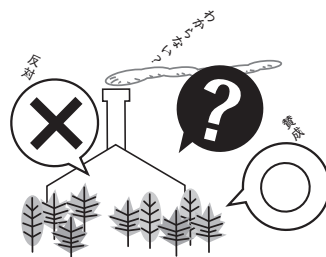


# ごみ問題の今!!

活断層



# 神城断層の調査結果を再検証する



講師：奥西 一夫 氏  
京都大学名誉教授・災害地形学  
国土問題研究会理事長

日時：5/18 (日) 14:00～16:30

場所：白馬村多目的ホール (役場となり)

参加費：無料 (カンパ歓迎します!)

主催：ごみ連協

奥西一夫氏  
昭和13年7月生まれ。京都大学卒、京都大学防災研究所助手、京都大学助教授を経て、平成2年京都大学教授に。防災研究や地盤災害研究部門傾斜地保全研究等の研究を行う。現在、京都大学名誉教授、国土問題研究会理事長。

国土問題研究会とは？  
科学技術が「公共」という名目で開発を進める側にだけ奉仕させられ、ともすれば開発の犠牲となる地域住民のために活用されなかったことに対する反省にたって、昭和34年の死者5000名を出した伊勢湾台風を契機として全国的に広がってきた被災者救済と災害予防運動からの要望もあって、昭和37年に設立された組織です。

3月17日の確認調査結果報告会で、神城断層の調査・分析にあたった「信州大学山岳科学総合研究所」原山教授からのお話がありました。

その冒頭で原山教授は、研究所の役割として

- ・独立した第三者機関としての科学的データの提供
- ・建設の適否についての評価機関ではない!
- ・判断するのは、あくまでも白馬村など広域連合の皆様

の3点を挙げられました。しかし、この事に関して**広域連合は「いつ、誰が、どのような過程を経て判断するのか」**について明らかにしませんでした。

ごみ連協では現在、連合長に対してこのことを質問するとともに、原山教授に8項目からなる公開質問状(4/5提出)を出してその回答を待っています。また「確認調査の分析が、複数以上の研究者によって行なわれるようにしてください」との要望(2/20提出)に対して、広域連合がいまだ具体的な対応を示していないことを残念に思っています。

今回、専門家である国土問題研究会(国土研)の奥西先生に、信州大学山岳科学総合研究所の調査結果から「何が解って」「何があいまいで」「何が問題として残っているのか」などのお話を聞けることは大変有意義なことと思います。大勢の皆さんのご参加をお待ちしています!

